

2026 年度(令和 8 年度)学校評価自己評価表

神辺西中学校区	校番74	福山市立神辺小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力調査結果を分析して具体的な改善策を確認して成果につなげる。 メディアコントロールデイの推進 長期欠席者の減少に向けた取り組みの推進

<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 福山市学力調査において児童・生徒のつまずきを把握し、基礎の徹底を図っている。 小中ともに、自己指導力の向上に努めている。 スポーツテストにおいて、県平均を下回っている項目が多数ある。
--

育成する 資質・能力	スキル:自己を認識する力・自己選択できる力・表現力 倫理観:粘り強くやり切る力・挑戦し続ける力・コラボレーション力
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	知:自分の考えを持ち伝え合う子 徳:人の気持ちがわかり協力できる子 体:健康でねばり強い子
中学校区として 統一した取組等	・神辺西中学校区でめざす授業の姿を共有(「書く」ことを中心とした「考える」授業づくり) ・児童生徒による児童会活動生徒会活動の充実 ・神辺西中学校区における「資質・能力」にもとづく個に応じた指導の実施

III 自校

学校教育目標
自考自動 一自ら考え、自ら行動する一

現状
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 2025 全国学力・学習状況調査では、全国平均に対して、国語+4.2 算数+2.0 理科+3.9であった。福山市学力定着学力調査(12月)では、全国平均に対して4年生は国語-7.8、算数-4.7、5年生は国語+3.5、算数+1.8であった。どの学年も無回答率が低く、記述式問題全般において全国平均を上回っており、自分の考えを書いて整理することに一定の成果が見られる。一方で、自分の考えを表出することや、相手意識をもって分かりやすく表現することに苦手意識をもつ児童がいることが課題である。 児童会が中心となって各学年の様子や発表内容を全校に伝えることで、行事へ向けて、学校全体で士気を高めた。また、行事を通して、互いの良いところを評価し合うことができた。行事等における主体的な動きを、日常的な学校生活全体に広げていくことが、次の課題である。具体的には、相手の気持ちを考えたり、相手意識をもたせたりするために、授業始めの挨拶の仕方を統一したり、服装や身の回りを整えたりすることを意識していく必要がある。 体育委員会が月1回程度、遊びの企画を行い、多くの児童が運動に取り組むことができた。新体力テストでは、平均を超えている項目は、8項目中7項目である。また、中学校区で行っているメディアコントロールの取組では、1時間未満を目標にし、35%の児童が達成したという成果はあったものの、高学年の使用時間が長いという課題がある。 <p><授業></p> <p>個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業改善に取り組んでいる。積み上げてきた「書く⇔考える」学びを基に、「伝える」ことに重点をあてて取り組んだ。豊かな表現をする児童がいる半面、「伝える」ことを苦手とする児童が固定化しているという課題がある。</p>

育成する 資質・能力	①自己を認識する力 ②思考し判断し表現する力 ③試し挑む力
めざす 子ども像	① 学びや生活を通して自己を振り返ることで、学んだことや良さ、がんばり、課題を実感できる子ども。 ② じっくり考え、自分の考えをもつ子ども。お互いの考えを伝え合い、対話を通して学ぼうとする子ども。学習や生活の課題に対して、解決の方法を考え行動することも。 ③ 学習や生活の様々なことに対して、試行錯誤を繰り返したり、挑戦してみようとしたりする子ども。
研究	<p>テーマ 「動く⇔考える」学びで、自立(=『自考自動』)することも 「動く⇔考える」学びの創造 ～体・頭・心が動く授業づくりを通して～</p> <p>【体育科】 45分の中に「試行」「思考」を取り入れた授業を展開する。 児童が思考しているかどうかを見取り、検証していく。(アンケート・行動観察)</p> <p>【国語科】 「心」が動くことに重点を置いた、授業を展開する。 児童が「楽しい」と感じているかを見取り、検証していく。(アンケート・行動観察)</p>
めざす授業の姿	心が動くことによって、体と頭を動かすことが相互に関連する授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立神辺小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
1	「動く⇔考える」学びで、自立(=『自考自動』)することも	★	新規	心が動くことによって、体と頭を動かすことが相互に関連する授業を実現する。	① 45分の中に「試行」「思考」を取り入れた授業を展開する。 ② 「心」が動くことに重点を置いた、授業を展開する。	・ 体育科の授業において「考えることが楽しい」と思える児童の割合を70%以上にする。 ・ 国語科の授業において「意欲的に取り組んでいる」と思える児童の割合を70%以上にする。								
1	「動く⇔考える」学びで、自立(=『自考自動』)することも	★	新規	児童が自分の気持ちを相手に伝え、相手の気持ちも考えたうえで、自分の行動を振り返り、自ら行動に移すことができる。	① 毎学期「学習面」「行動面」で児童一人一人が目標を設定し、振り返りを行う。 ② 授業の始めと終わりのあいさつの際に、身の回り、服装を整えて、相手の目を見てあいさつをする。	・ 学校生活目標の達成度を85%以上にする。 ・ 授業始めと終わりに、身の回りと服装を整えている児童を90%以上にする。 ・ 相手の目を見てあいさつをしている児童90%以上にする。								
1	「動く⇔考える」学びで、自立(=『自考自動』)することも	★	新規	児童が体力向上を図るために、運動に積極的に取り組み、自分の体の健康(早寝早起き、食事、間食、スクリーンタイム、歯磨きなど)を考えて生活することができる。	① 運動に親しむことができるように、体育委員会が遊びの提案をしたり、保健体育部で運動コーナーの設置などの環境づくりをしたりする。	・ 「運動をすることが好きである」児童の割合を80%以上にする。								

				②自分の生活習慣を見直すために、食生活に関わるミニ保健やメディアコントロールデイの設定をする。	・平日のスクリーンタイムの時間が2時間未満の児童の割合を75%以上にする。										
6	教職員一人一人が働き方を見直し、学び合う取組を推進することで、やりがいを実感しながら主体的に取り組むことができる組織づくりを行う。	継続	教職員一人ひとりの働き方に対する意識の醸成を図る。	①「授業づくりポートフォリオ」をはじめとした官製の研究、校内の研究、教職員の興味関心を生かした研修とが連動するようにマネジメントする。 ②超過勤務40時間以内を目指し、部会や学年で業務内容を共有したり、進捗状況を確認したりする。	・職員アンケートにおいて、「研修での学びが、日々の教育実践につながっている」職員を80%以上にする。 ・超過勤務40時間以内の職員90%にする。										

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	達成度	評価基準
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。